



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

R04/10

32号

〒770-0812 徳島市北常三島町 2丁目 34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

地域医療支援と連携強化のために

当院は、平成20年に徳島県より地域医療支援病院の認定を受けております。地域医療支援病院とは、一次医療を担うかかりつけ医を支援して連携を図りつつ役割を分担し、地域医療の中核的役割を担う病院のことです。

地域の医療機関との協力体制充実や連携強化のため、当院では以下のような取り組みを行っています。

■連携病院への訪問・情報共有

院長をはじめ患者支援センターを中心に、医師、看護師、MSW等が病院訪問を行い、情報共有と連携の円滑化を図る

■共同診療の推進、連携パス運用など

共同診療（連携医療機関から当院へ入院した患者さんに、連携医と当院の主治医が共同で診療・指導等に当たること）を行う環境の整備、連携パス運用の推進

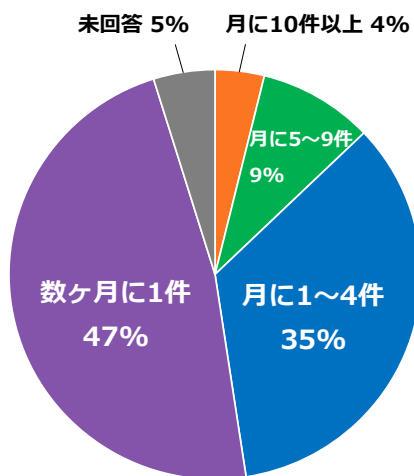
■地域医療関係者の要望把握、改善

患者支援センターの職員によるヒアリング、連携医対象のアンケート調査実施、地域医療連携運営委員会における医師会との意見交換等

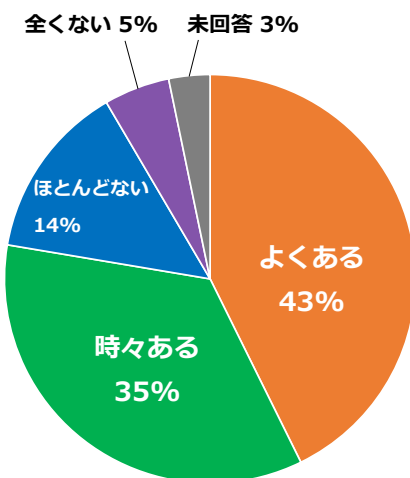
連携医療機関対象のアンケート調査については、今年度の配布数は716枚、回答数は309枚、回収率43.2%でした。調査結果は1～2ページのグラフに示すとおりです（一部抜粋）。 [2ページに続く](#)

地域医療機関対象のアンケート調査結果

●当院への患者紹介はどの程度ございますか。

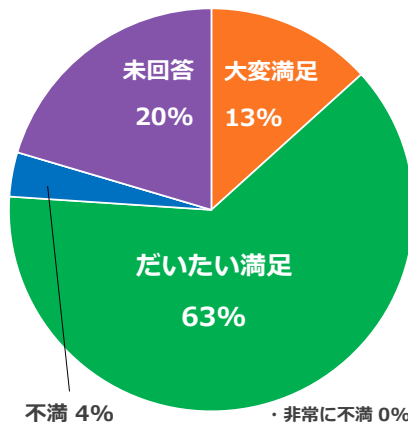


●当院にご紹介いただいた患者さんの逆紹介はありますか。

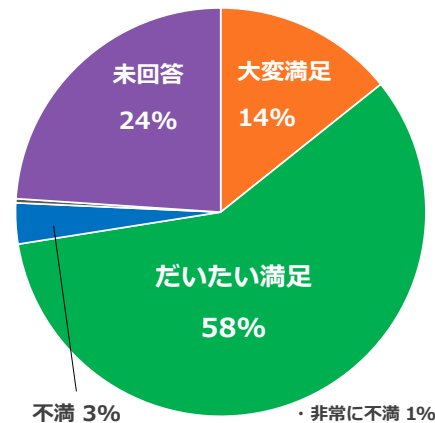


●救急患者さんの受け入れはいかがですか。

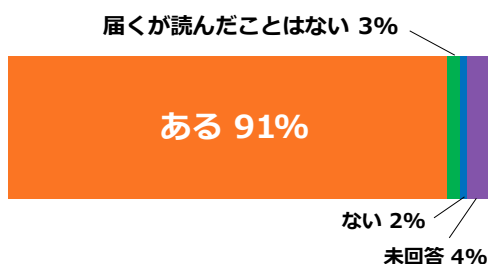
① 外科系救急患者さんの受け入れ



② 内科系救急患者さんの受け入れ

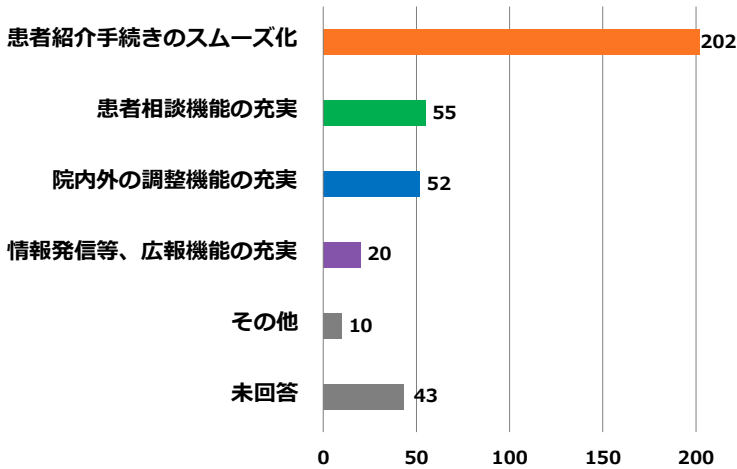


●徳島市民病院だよりを
読んだことはありますか

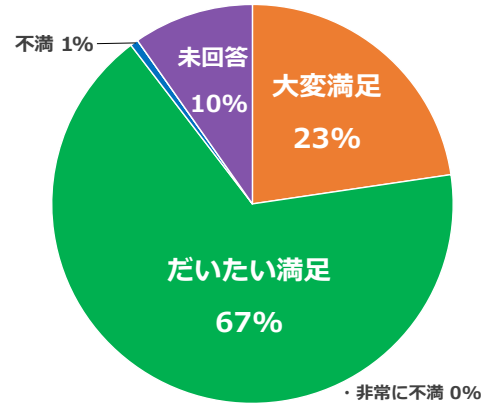


●患者支援センターにどのようなことを期待しますか。

(複数回答)

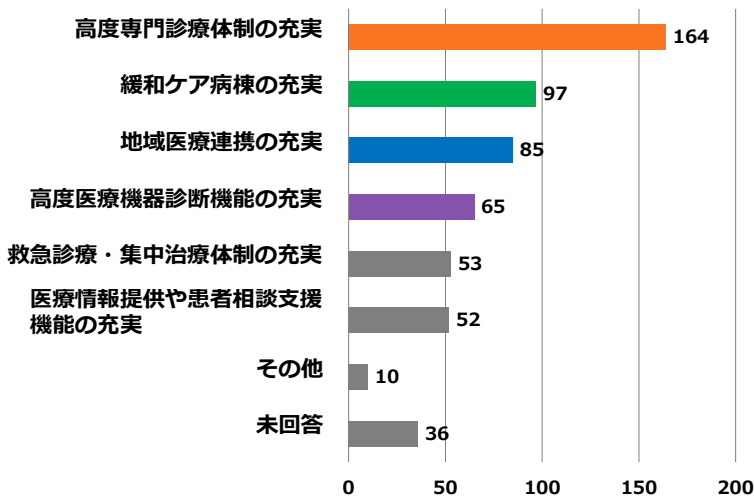


●患者支援センターの対応はいかがですか。

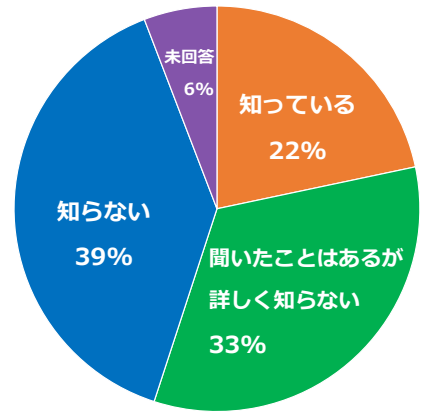


●当院のがんセンターにどのようなことを期待しますか。

(複数回答)



●当院ががん患者さんに発行している「あんしんカード」をご存じですか。



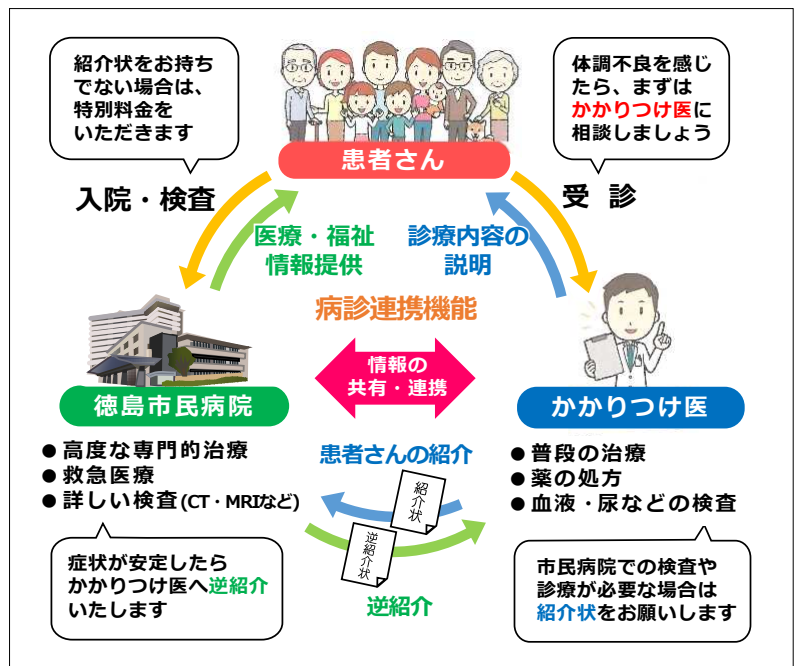
1ページ続き

紹介・逆紹介の適切なサイクル構築はかかりつけ医との信頼感を育て、患者さんの負担軽減に繋がります(右図参照)。また、高齢化が急速に進む日本では、生活習慣病の予防・治療やリハビリ、介護等の問題についても地域の医療機関との連携が欠かせません。

当院は、日々いただくご意見やアンケート結果を真摯に受け止め、引き続き業務改善や支援体制の充実を図ってまいります。今後とも、徳島市民病院をどうぞ宜しくお願いいたします。

(患者支援センター 森田 敏文)

患者さんへ切れ目のない医療を提供するためかかりつけ医療機関と当院が連携し、適切な紹介・逆紹介のサイクルを構築・運用する▶



緩和ケア研修会、当院にて開催

9月25日、緩和ケア研修会が開催されました。緩和ケアとは、がんなどの重い病気と闘う患者さんやそのご家族の身体的・精神的・社会的苦痛などを和らげ、QOL（クオリティ・オブ・ライフ、生活の質）を向上させるためのケアです。当研修会は、がん診療に携わる全ての医療従事者が、基本的な緩和ケアを実施することができる体制構築を目的として行われてきました。平成29年からは受講対象が拡大され、医師をはじめ看護師、薬剤師、公認心理師が参加しています。

午前は各自がe-learning（パソコン等を用いたり、インターネット経由で学習すること）してきた内容を復習する講義を受け、その後3人1組でのロールプレイ（役割演技）を行いました。午後は全体を2つのグループに分け、架空症例に対するアセスメント（理論的分析）と対処方法について、グループで話し合います。それぞれの職種の強みを活かした、活発な意見交換の場になりました。

患者支援センターの仕組みや働きについての講義もあり、療養場所を問わず患者を包括的に支援する部署がある安心感を再確認しました。

コロナ禍となった今だからこそ、職種間や地域との繋がりの大切さを感じます。日ごろから双方向のコミュニケーションを意識していきたいと思う研修会でした。

（がんセンター 加藤 美玲）



多職種の参加者によるロールプレイの様子



架空症例について意見交換が行われた

がん患者さん向けのケア帽子配布

7月28日、徳島県乳がん患者会「あけぼの徳島」さんより、手作りのケア帽子を贈呈していただきました。ケア帽子（医療用帽子）とは、抗がん剤治療や頭部の手術、皮膚の病気などによって頭髪が脱毛した際に、外気や寝具とのこすれ等による刺激から、デリケートな頭皮を守るためのものです。

当院では、8月1日よりこの帽子を患者さんやご家族に無償提供できるよう、患者支援センター受付窓口に配備しております。あけぼの徳島代表の宮城 慶氏は、贈呈式後の会談にて「寄付金でガーゼ等を購入し、裁縫が得意な会員やボランティアスタッフが作成している。今後も、できるだけ多くの患者さんに提供してさしあげたい。」と語っていました。

ケア帽子配布については、8月31日の徳島新聞でも取り上げられています。県内では、当院以外の10病院と1施設に配置しており、ウェブサイトでも郵送希望を受け付けているそうです。

当院での配布開始から約2ヶ月、現在19枚を患者さんに提供しました。必要としている患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ患者支援センターまでお問い合わせください。

（患者支援センター 森田 敏文）



「あけぼの徳島」代表の宮城氏(中)と会員の女性(右)



ケア帽子を着用されている様子



患者支援センター受付窓口にケア帽子を配備

新任医師ご紹介

10月1日付で、当院に3名の医師が着任しました。整形外科の後東 知宏主任医長、消化器内科の高橋 拓医長、麻酔科の篠原 光治医員です。

外来診療担当医師表にも変更がありますので、詳しくは受付窓口にお問い合わせいただくか、ホームページをご確認いただきますようお願いいたします。



整形外科 主任医長

後東 知宏

下肢人工関節におけるロボット手術や骨切り手術等の関節温存治療を中心に取り組んでいます。

低侵襲手術にも力を入れているので、よろしくお願ひします。



消化器内科 医長

高橋 拓

患者さんに寄り添った、丁寧な医療を心がけます。

どうぞよろしくお願ひいたします。



麻酔科 医員

篠原 光治

安全かつ快適な麻酔を提供できるよう頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

初・再診に係る特別料金の変更

令和4年度診療報酬改定に伴い、10月1日より当院の初診・再診に係る特別料金に変更されています。詳細は右表のとおりです。

また、救急患者に対する初診時の特別料金についても変更点があり、救急車以外で来院されて受診後そのまま帰宅される場合は、特別料金をいただくこととなります。なお、特別料金を求めない事例もあり、以下はその一部です。

- 当院の別の診療科より院内紹介をされて受診する方
- 外来受診後、即日入院された方
- 周産期（産科）を休日・夜間に受診された方
- 特定健康診査、がん検診等の結果により精密検査の指示を受けた方
- 労働災害、公務災害、交通事故、自費診療の方

10月1日より変更された特別料金		
種別	令和4年 9月30日まで	令和4年 10月1日から
初診料保険外併用療養費特別料金 (紹介状を持たずに、当院を初診で受診された場合)	5,500円 (税込)	7,700円 (税込)
再診料保険外併用療養費特別料金 (他の病院または診療所に紹介を行う旨の申し出を行うも、当院を再診された場合)	2,750円 (税込)	3,300円 (税込)

救急患者に対する初診時特別料金の変更				
	救急車で来院		救急車以外で来院	
	受診後入院	受診後帰宅	受診後入院	受診後帰宅
診療時間内 (平日8時30分～17時)	×	×	×	○
診療時間外 (休日・夜間含む)	×	×	×	○

○：徴収する ×：徴収しない ※変更点は赤色で記載